

科目名称：	国際理解Ⅱ	
担当者名：	ガート・ウエスタハウト	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
この授業の目的は、世界について学修することです。いろいろな国や歴史や人々、イベントそして発明などについて学びます。週ごとに、読む課題があります。毎回、グループディスカッション、クラスディスカッションとプレゼンテーションを行います。このクラスで、重要なのは授業への参加と興味です。		
授業の達成目標・到達目標		
国際人としてさまざまな場所で積極的に活躍できる人間形成		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)		60		40	100
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	教材の内容をよく読み、理解することができる	教材をゆっくり読むことができる。ある程度理解できる。	わからないことを調べながら ゆっくり読むことができる。	教材をあまり読めず、理解もできていない
理解の視点と表現	宿題をきちんとこなすし、内容を深く理解している	宿題はきちんとこなすが、内容はまあまあ理解している	宿題は一応こなしている	宿題、課題などできていない
学びへの積極性	質問や意見など、講義内で毎回1回以上発言できる	質問や意見など、講義内でたびたび自発的に表現できる	質問や意見など、時々表現できる	講義に対して、聞く気がなく、居眠り、私語などがある

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 世界の文化についての紹介	シラバスを精読しておく。	40分
第2回 世界の人々とお付き合いするための基礎知識	教科書を読み、「世界の人々とお付き合いするための基礎知識」の質問をつくる。	45分
第3回 味だけでは語れない世界の食習慣	教科書を読み、「味だけでは語れない世界の食習慣」の質問をつくる。	45分
第4回 トイレにびっくり!世界の住まい	教科書を読み、「トイレにびっくり!世界の住まい」の質問をつくる。	45分
第5回 小テスト1、どこの国でも服装が人を表す	教科書を読み、「服装が人を表す」の質問をつくる。	45分
第6回 制服だらけの世界の結婚と家族	教科書を読み、「制服だらけの世界の結婚と家族」の質問をつくる。	45分
第7回 1年が365日ではない世界のカレンダー	教科書を読み、「1年が365日ではない世界のカレンダー」の質問をつくる。	45分
第8回 うっかりすると罰金、世界の街の習慣	教科書を読み、「うっかりすると罰金、世界の街の習慣」の質問をつくる。	45分
第9回 働き者はどこに…?世界のビジネスマンたち	教科書を読み、「働き者はどこに…?世界のビジネスマンたち」の質問をつくる。	45分
第10回 小テスト2、和製も活躍、世界のスポーツ娯楽	教科書を読み、「和製も活躍、世界のスポーツ娯楽」の質問をつくる。	45分
第11回 平等?不平等?各国公共制度	教科書を読み、「平等?不平等?各国公共制度」の質問をつくる。	45分
第12回 日本よりキビシイ世界教育事情	教科書を読み、「日本よりキビシイ世界教育事情」の質問をつくる。	45分
第13回 各国の言語	教科書を読み、「各国の言語」の質問をつくる。	45分
第14回 各国についてのレポート発表(プレゼンテーション)	教科書を読み、各国についての質問をつくる。	45分
第15回 小テスト3 およびまとめ	教科書を読み、第1回~14回をまとめて質問をつくる。	45分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト3回 @ 20% (60) ; 発表 1回 @30% (30) ; 参加力@10% (10)

課題に対するフィードバック

発表資料の下書きと最終版についてコメントする。
学期中には学生の進捗を確認し、支援が必要な場合は対応する。

教科書・参考書

足立 恵子 :英語で比べる「世界の常識」(講談社)
教科書の該当ページを開きながら解説を行う。